

“絆”きずな

事業所リレーエッセイ パートII ゆずる

「今、宮古の地で思うこと」

今年度に入り、ゆずるに新たなスタッフ3人が仲間入りしました。皆が日々、奮闘する姿に刺激を受けながら、自分も頑張らねばと気が引き締まる毎日です。私が経験したことや、先輩たちから伝えられてきたことを、今度は後輩たちにつなぎ、ともに成長していきたいと思えます。

この1年の間に、宮古市、山田町の街並みは大きく変わり、新しい道路やお店、住宅が増えました。その一方で現在も仮設住宅で生活する方もいます。大変な状況であっても、優しく、温かい方ばかりであり、私たちが逆に元気やエネルギーをたくさんいただいています。ゆずるのスタッフや地域の皆様ら、周りの方々と力を合わせ、地域の皆様に喜びや安心を少しでも感じていただけるよう、日々、力を尽くしていきます。

一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団
宮古・山田訪問リハビリステーションゆずる 理学療法士

橋 直毅

訪問リハ・地域リーダーの“絆” ご当地紹介⑦ 愛媛県編

愛媛県では遅ればせながら平成29年10月にPT・OT・ST 3士会による「愛媛県リハビリテーション専門職協会」が設立されました。当県は四国地方の北西部から北中部に位置する県です。東予地区・中予地区・南予地区と大きく3つの地区があり、それぞれ地域特性に違いがあります。3士会とリハビリテーション専門職協会が協働し3つの地域において、その地域で従事するセラピストが地域の実情に沿った地域包括ケアシステム構築に貢献できるよう体制整備を進めています。

行政や他団体と連携・協力し地域づくりに貢献できる組織となれるようオール愛媛で頑張っています。

愛媛県訪問リハ・地域リーダー 理学療法士
株式会社クオリア 訪問看護ステーションくるみ

公原 央智

南から始まる「訪問リハビリテーションの魅力紹介」 愛知県

例えば、担当している利用者さんってどんな人？と聞かれて、病院なら「脳卒中の人、失語症の人、嚥下障害の人」など疾患・障害名で答えるところ、訪問リハは「～に住んでいる人、何人家族、昔～していた人」などと答えるところが魅力だと思います。

どういうことかということ、患者と治療者ではなく、同じ地域の生活者同士として関わりがもてるということです。私はリハビリテーションの知識と技術を持った住民の一人。だから、～先生ではなく、～さん～くんと呼ばれます。利用者さんから、そう呼ばれることがとてもうれしく思います。

在宅でのリハビリテーションにおいて、最終的に利用者さん本人が「どのように生活していくのか」を決めてもらうことが大切だと思っています。しかし、医療というものは専門的すぎるがあまりに、それにまつわる様々なことを決定していくことは、一般住民には難しく、専門家にお任せということになりがちです。

このような関係は、生活支援を本人主体で、自律的に進めることができると思います。当たり前の人と人との関係の中でリハビリテーションを行えることが、訪問リハの魅力だと思います。

愛知県訪問リハ・地域リーダー 言語聴覚士
株式会社ジェネラス 訪問看護ステーションほたるみどり

村瀬 文康